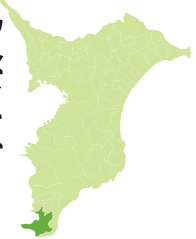


「ついでに、健康組合のメンバー」

昭和運送興業株式会社 の巻

(館山市)



2016年を振り返りますと、8月に開催されたリオデジャネイロ・オリンピックが強く印象に残っているのではないのでしょうか。このリオ五輪では、日本は過去最高となる41個のメダル(金12個・銀8個・銅21個)を獲得しました。日本人選手の活躍に読者の皆さまも感動し、勇気づけられたことでしょう。2020年東京オリンピックでは、さらなる躍進とメダル獲得に期待がふくらみます。



▲安田憲史専務

一方では、熊本や鳥取で発生した大地震、北海道への相次ぐ台風上陸など、各地で自然災害による甚大な被害を受けました。お亡くなりになられた方、被災・被害にあわれた方々には心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。一刻も早い復旧を果たされますよう祈念するとともに、2017年が穏やかに健やかな1年となることを願ってやみません。

★ ☆ ★

秋の清々しい気候と晴天に恵まれた10月27日、私たちは第70回目の事業所訪問先として、館山市にある昭和運送興業株式会社(安田信之社長)を訪れました。館山市は、千葉県房総半島南部に位置します。年間平均気温16℃以上という温暖な気候と自然に恵

地域に根ざした事業を展開し南房総地域の振興に貢献

まれ、真冬の1月でもポピーやストック、菜の花が咲き誇り、「花のまち」として、また、マリンスポーツや海水浴の人気スポットとして年間を通じて多くの観光客が訪れます。住んでよし、訪れてよし、館山は魅力あふれる街です。今回の目的地は、日本の夕陽百選にも選ばれた北条海岸からほど近いところにありました。北条海岸は、空気の澄んだ日には富士山が遠望できる絶景スポットとしても知られています。

私たちが「こんにちは健保組合です!」と本社事務所を訪ねると、業務多忙にもかかわらず、安田憲史専務自ら出迎えてくださいました。

初めに、安田専務から同社の歴史、業務内容とグループ会社についてお話しを伺いました。同社の前身は、派遣業を営む昭和興業(株)として、昭和27年に設立されました。翌年昭和28年8月に、安全・迅速・確実をモットーとし、地域で一番大きな工場「富士デイ

各部署を組織化しており、月に一度、各部署の責任者が一堂に会し、安田専務から連絡・決定事項、法律改正などの情報を発信し、その都度活発な意見交換も行っているそうです。

さらに、各部署において月に一度、責任者と現場で働く社員による安全対策、危険予知訓練など、事故防止に向けた安全会議の場を設け、議事録の作成、提出を徹底し積極的に取り組んでいるとのこと。「社員一人ひとりの意識を高めるためには、継続的な教育が必要です。漫然と過ごしていると緩みが生じ大きな事故につながります。社員には常に3秒先から10年先を見据える力を身につけてほしい」と話します。風通しの良い社内風土の中、徹底した教育体制でこれまでこれといった大きな事故は起きていないとのこと。

健保組合においても、既存の事業を漠然と実施するのではなく、健診結果やレセプトデータを分析・解析し、情報の見える化を図り、組合員の皆さまが必要とする情報を発信していけるよう努めていきたいと感じました。

健康は資本と捉えアクティブな趣味を持つ

最後に、ご自身の健康管理と趣味についてお伺いしました。

安田専務は、体のメンテナンスとして年に一度の間ドックは必ず受診されているそうです。普段の食事では、高カロリーの食事を控えることや節酒を心がけ、「健康は資本です」と話します。

趣味は多趣味のようで、マリンスポーツ、ゴルフ、釣り、海外旅行、映画鑑賞をあげられました。アクティブに活動することで心身ともにリフレッシュし、ストレスを上手に解消しているものとお見受けしました。安田専務には、引き続き体調管理には十分注意され、これからも公私ともに充実した生活を送られますよう祈念申し上げます。

★ ☆ ★

笑顔の絶えない取材の時間もあっという間に過ぎ去り予定の時間を迎えました。安田社長、安田専務はじめ、昭和運送興業の皆さま、ご協力ありがとうございました。



▲出発を待つトラック

に後継者不足が深刻化し、衰退の一途をたどっています。そのような環境の中、酪農の衰退を防ぐべく顧客企業や関係者と連携し、酪農家の飼料を混ぜ合わせる手間の軽減や、より栄養価の高い飼料を個々の酪農家に提供することを目的に、TMR(Total Mixed Rations)「完全混合飼料」センターの運営、管理業務を担い、配合飼料、混合飼料、乾牧草など各種養牛用飼料の生産、加工、販売、配送までの一元管理から品質管理の徹底を行っているそうです。

さらに、コントラクター事業として、耕作放棄地の効果的な活用や、飼料作物の品質向上、牛糞尿の有効活用などに取り組んでいるとのこと。また、牛を愛する人々が住むこの地で、「酪農家の方々に喜んでもらえる、健康で丈夫な牛を育てたい」という思いから、江戸時代の文豪曲亭(滝沢)馬琴が、安房の地を舞台に著した南総里見八犬伝のヒロイン伏姫にちなみ南房総ブランド牛「里見伏姫」の育成を始めたそうです。これらの事業は、数年前から10ヵ年計画として進められているのですが、「将来的に海外展開を目指しています」と意気込みを語ります。安田専務の明確なビジョンとリーダーシップが、近い将来、思い描いたとおりの目標を達成することと強く感じました。

前述のように昭和運送グループは、南房総地域の発展にたいへん貢献されており、長年培ってきたノウハウと顧客との強固な信頼関係を礎に、地域社会と共にますます発展していくものと思われま

将来を見据える力を身に付けるため徹底した社員教育に取り組む

社員教育については、同社では